

パプアニューギニア陸上油田の商業生産開始について

記者各位

当社(社長:西尾 進路)グループの石油開発部門である新日本石油開発株式会社(社長:大森 輝夫)がプロジェクト会社を通じて権益を保有するパプアニューギニア陸上鉱区(PDL2)において、新規油田(エスイーマナダ油田)の開発作業が完了し、3月27日に生産を開始いたしましたのでお知らせいたします。

エスイーマナダ油田は1991年に発見されましたが、原油処理施設までの輸送について地形上の課題があったことから開発が見送られてきました。しかし、当該地域の原油・天然ガス埋蔵の残存ポテンシャルの高さから、2004年12月に開発が始まり、急峻な山岳地帯にパイプライン(16km)を敷設するなどの困難な作業を経て、今回、生産開始に至りました。最大生産量は日量7千バレルとなる見込みであり、今後、さらなる新規油田の発見、開発も期待されます。

当社グループは、原油・天然ガス生産量の維持・拡大を目指し、探鉱・開発余地が大きいと考えられるパプアニューギニアにおいて事業活動を継続してまいりましたが、今後も同地域での事業を拡充するとともに、世界各地の重点地域においても積極的に探鉱・開発事業を展開し、第3次連結中期経営計画の目標達成と上流から下流までの一貫操業体制の確立に向けて、一層の努力を続けてまいります。

なお、エスイーマナダ油田に関する参加企業および権益比率は以下のとおりです。

参加企業	権益比率	概要
マーリンペトロリアム社	7.93%	新日本石油開発が36.41%を出資する日本パプアニューギニア石油(株)の100%子会社(現地法人) 日本パプアニューギニア石油(株)の他の株主は、経済産業大臣(62.03%)および三菱商事(1.56%)
オイルサーチ社 (オペレーター)	72.27%	パプアニューギニア大手の石油開発会社
AGL社	11.90%	オーストラリア大手のガス供給会社
PRK社	7.90%	パプアニューギニア政府のプロジェクト会社

以上

 [プロジェクト沿革、鉱区位置図 \(PDF:47KB\)](#)